



# コツコツ とことん

大仙市立太田中学校  
令和4年4月28日  
NO. 17



うららかに たくましく ～耕し 萌えたち みのらせ さきみだる～

## まさかに備えて

東日本大震災から11年が経ちましたが、最近、地震がたびたび起こっています。また、地震に限らず、豪雨や暴風雨・暴風雪等々でも大きな被害を被る可能性もある太田地域です。そんな地域に在る本校では今後一層防災学習に力を入れなければなりません。被災地交流や被災地学習、避難訓練や地域防災学習などの大きな学びの場はもちろんですが、予告なしの不意の訓練にも、慌てることなく平然と安全行動をとることができる太中生になってほしいと思っています。そのため、昨年に引き続き、今年度も予告なしに、様々な場面を想定したシェイクアウト訓練を毎月のように実施する予定です。日常の訓練の積み重ねが、子どもたちの防災意識の高さにつながっていくことを、防災学習に力を入れている学校では常々口にしています。



そこで、昨日4月27日（水）、午前で学校を終え帰宅前に「地震を想定した、今年度1回目のシェイクアウト訓練を行いました。1年生も

小学校で何度も経験しているからでしょう、慌てたりふざけたりすることなく、素早く身を守る行動をとる姿が見られ、防災意識の高さを実感しました。今後毎月、様々な場面を想定したトレーニング型の訓練と、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、外部の専門的立場の方々を講師にお招きして、体験を伴う訓練も実施していきたいと考えています。

また、地震に限らず、火災やその他の天災、交通事故、不審者などからも自分の身を守らなければなりません。そのためには、「自分の命は自分で守る」そんな心構えと準備が一番大切であり、その上でのトレーニング的な訓練の繰り返しが効果的です。

また、災害全体を考えた時、ある調査では、「子どもたちや教師が学校に居る時間は年間の中で22%～25%位で、学校にいない時間の方が断然多い。すなわち、子どもも教師も学校に居ない時間に災害が起きることが多い。そのとき、教師も子どももどう対処するかを決めておく、家族で話し合っておくことが大切」とあります。御家庭でも、大地震発生時に限らず様々な災害発生時の家族の対応について確認しておくことも必要となります。そのときに備え、家族で話し合う時間をもっていたければ幸いです。

## 部活動の交流の再開！

現在も、大仙保健所管内においては新型コロナウイルスの新規感染者が連日報告されるなど、予断を許さない状況が続いておりますが、可能な限り学校の教育活動を継続し、児童生徒の健やかな学びを保障していくという観点から、長らく中止していた部活動の交流を4月29日（金）から認める通知が、大仙市教育委員会から届きました。

ただし、部活動の交流再開に当たっては、生徒の健康と安全を第一に考え、特に次の点に留意しながら実施することとなります。

- ◎部活動の交流等は、当面の間は県内にとどめるとともに、校長の責任の下、保護者の同意を得て実施する。
- ◎校内はもとより、中学校区内及び交流相手校の学校区内の感染状況も踏まえて判断する。
- ◎宿泊を伴う活動（合宿等）については、実施しない。
- ◎基本的な感染防止対策を徹底するとともに、感染リスクの高い活動は可能な限り避ける。
- ◎大会等への参加は、東北大会や全国大会等、真にやむを得ない場合を除き控える。真にやむを得ない大会と判断して参加する場合は、保護者の同意を得た上で、校長の責任の下、慎重に判断する。

まだまだ多くの制約はありますが、その中で全力を尽くしますので、各部の保護者会のご理解ご協力、よろしくお願いたします。

なお、状況に変化があった場合は、その都度、学校または部活動顧問からお知らせいたします。